

笠中生徒の リサイクル活動とボランティア

現在、笠松中学校PTAの大きな行事として、春と秋に二回リサイクル活動を行っています。PTA会員、学校職員、生徒のボランティア、地域の皆さんの協力のもと笠松町三校区一斉に行われています。このリサイクル活動の本来の目的として、収益を教育環境の整備に充てるというだけでなく、生徒たちがボランティア活動により自主性を培うこと、地域のかたがたとの交流も大きな目的となっています。

十一月には、PTA主催の親

子講演会において「地球温暖化とリサイクル」というテーマで、親子一緒に学ぶ機会がありました。そのなかで、地球温暖化による深刻な環境変化の問題、スーパーのレジ袋一枚に二リットル以上の石油が使われること、



均気温は上昇しています。これも我々おとな世代の責任と感じ、子どもたちにはより良い教育環境の中、勉学に励んでもらいたいと思います。



新聞と雑誌の分別の重要性、カン・ビンを洗浄する思いやりの心など有意義なお話を伺い、リサイクルに対する重要性を再認識することができました。学校の要望により今年度夏に、リサイクル活動の収益金をもとに各教室に大型扇風機を二台設置することができました。私たちの子ども達の頃に比べ確実に平

笠中の生徒は色々なボランティア活動を行っています。これからも各人が家庭、地域身辺などから実践して広がってほしいものです。

笠松中学校PTA

会長 後藤 高美

教育委員会
だより

学び続けるすばらしさ

スウェーデンの大学キャンパスに足を踏み入れると、日本のそれとの大きなギャップに驚きを隠しきれないそうです。日本ではキャンパスも教室も二十代の若者で埋め尽くされている様相をイメージしますが、スウェーデンでは、老いも若きも一緒になって学び合う姿が見られるといいます。また、壮年層と若年層が一緒に学び合うことにより、若年層への学習効果が格段にあがるという研究結果も得られているそうです。日本でも最近になって、『社会人がキャリアアップのため

「経験からの学び」：等々、生きていく限りにおいて人は学び続けます。その学びにより人は成長を続けていくのです。

に再入学して学ぶ姿』はもとより、『生涯学習という理念により壮年層が大学にて学ぶ姿』が自然な姿として受け止められるようになってきています。

楽しく愉快に学びながら成長していくことができるならば誰もがそれを享受したいと考えるでしょう。しかしながら、学びには身に付いた後の喜びがついてくるかわりに、身に付くまでの苦しみや辛さもついてまわります。そこを乗り越えるべく能動的に学ぶ姿勢こそが自分を高め、地域コミュニティを高め、社会全体を上げていくことにつながっていくのです。

さて、「学び」とは本来、これで終わりというものではありません。「人からの学び」、「本からの学び」、

来年度の抱負として、「読書30冊」、「地域コミュニティにおける異年齢集団活動への参加」など、大きな決意を抱いてみてはいかがでしょう。そして、それが絵に描いた餅にならぬよう、ひとつ大きな声で周りに公言してみても。

